

# 骨粗鬆症リエゾンサービス 状況報告

# 背景

ビスホスホネート薬の**1年継続率は4割程度**。  
そのうち自己中断が**60%以上**とされている。

自己中断理由として

「服薬動機の不足」 (21%)

「治療への無理解」 (11%)

「薬剤への不信」 (3~5%)

「服薬の不便さ」 (14%)

そこで当院では、2020年4月より、脆弱性骨折で当院入院中の患者に対し、骨折2次予防としての取り組みを開始した。

# 骨折の二次予防(2020.4~)

- 脆弱性骨折入院患者でサービスの趣旨が把握でき、  
ADLが概ね自立して在宅復帰見込みの方を選定  
(ADL自立・認知機能低下なし・説明に同意が得られる)
- 骨密度・骨代謝マーカー・FRAX・片脚立位時間を測定し、検査結果をもとに患者に状態説明
- 患者退院後1ヶ月・半年・1年のタイミングで電話連絡し、ADL状況・服薬状況・運動実施頻度について確認

# 骨折の二次予防(2020.4~)

- 脆弱性骨折入院患者でサービスの趣旨が把握でき、ADLが概ね自立して在宅復帰見込みの方  
(ADL自立・認知機能低下なし・説明に同意が得られる)
- 骨密度・骨代謝マーカー・FRAX・片脚立位時間を測定し、検査結果をもとに患者に状態説明
- 患者退院後1ヶ月・半年・1年のタイミングで電話連絡し、ADL状況・服薬状況・運動実施頻度について確認

# 骨折の二次予防(2020.4~)

- 脆弱性骨折入院患者でサービスの趣旨が把握でき、  
ADLが概ね自立して在宅復帰見込みの方  
(ADL自立・認知機能低下なし・説明に同意が得られる)
- 骨密度・骨代謝マーカー・FRAX・片脚立位時間を測定し、検査結果をもとに患者に状態説明
- 患者退院後1ヶ月・半年・1年のタイミングで電話連絡し、ADL状況・服薬状況・運動実施頻度について確認

# 退院後半年の電話連絡が出来た7名の調査結果

## 治療薬継続について

毎服用薬できている：7人 服用できていない：0人  
(VDのみ：1人 ビスのみ：2人 ビス+VD：3人 テリパラチドBS：1人)

## 歩行状況について

問題なし：6人 歩きにくくなった：1人

## 転倒なく生活できているか

転倒なし：6人 1回転倒：1人

## 転倒予防のための運動について

週3回以上：3人 週2回以下：4人 ほとんど運動していない：0人

**入院中の説明と退院後の連絡により、服薬や転倒予防への意識が保たれていると思われる。**